

●プロフィール

サンチェスセスマ教授 (Dr. Francisco José Sánchez-Sesma) は 1950 年メキシコシティに生まれ、1975 年にメキシコ自治大学工学研究科から工学修士を取得後 1976 年から同大学の工学研究所教授に着任、1979 年に工学博士を取得されました。その後 1997 年から 1999 年にはメキシコ石油公団研究所にも勤務され、1999 年から 2003 年にかけては工学研究所所長も務められました。現在もメキシコ自治大学工学研究所と地球物理学研究所の併任教授として後進の指導に当たられています。この間、40 年近くに渡り地震学・地震工学の第一人者として、地震波の散乱・回折・干渉現象、堆積盆地・地形効果による増幅特性など、波動伝播に関する幅広い分野において常に最先端の研究をされ、特に理論的なメカニズムの解明を数多くされてきました。



その研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されておられます。サンチェスセスマ教授は、2001 年から 2 年間メキシコ地震学会会長を務められ、2004 年から 2 年間メキシコ科学アカデミーの会長も務められました。また、Mexican National Sciences and Arts Award (Mexican Civil Engineering College から) や Luis Esteva Medal 2011 (Mexican Society of Earthquake Engineering から) など多くの賞を受賞されています。

●防災研究所とのかかわり

サンチェスセスマ教授は防災研究所においては、招へい外国人学者として、1988 年度、1991 年度、1994 年度にそれぞれ 2~3 ヶ月、外国人客員教授として 2010 年度に 4 ヶ月滞在され、「三次元波動伝播解析法」や「表面波を用いた地盤構造の同定」、「擬似スペクトル法による不均質地盤解析」や「拡散波動場理論に基づく地盤構造同定手法」に関する共同研究・研究指導をされてきました。また、これらの研究内容に関連した地震学の講義・ゼミナールを行い、地震学・地震工学・耐震工学を中心とした地震防災に関係する分野の学生、若手研究者への教育を熱心に行われました。その結果は Aoi et al. (1995) や Sánchez-Sesma et al. (2001) , Kawase et al. (2011) , Matsushima et al. (2014) など 7 編の審査論文に結実しています。

これらサンチェスセスマ教授との共同研究や彼の学生・若手研究者への長年にわたる研究・教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。サンチェスセスマ教授にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の DPRI Fellow として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたいと思っています。